

## ●第2回日本医学会連合 Rising Star リトリート参加報告

香川大学医学部自律機能生理学 倉原 琳

日本生理学会の推薦を頂き、第2回日本医学会連合 Rising Star リトリートという会合に参加しましたので、ご報告致します。

会議：第2回日本医学会連合 Rising Star リトリート  
ト—ホメオスタシスとその破綻—

会期：2023年3月5日（日）～6日（月）

会場：淡路夢舞台国際会議場

「リトリート」という言葉は聞き慣れないものでしたので、調べてみますと、「仕事や生活から離れた非日常的な場所で自分と向き合い、心と身体をリラックスさせる過ごし方」と記されていました。

日本医学会連合が開催したこのリトリートの趣旨は、「基礎部会関連学会で活躍する若手会員50名を招待し、各自の研究発表を通じ、研究者間の交流・連携・横断的研究活動を促進すること」だそうです。淡路島に近かったということもあると思いますが、今回日本生理学会の推薦を頂きまして、この会に参加させて頂きましたことがとても光栄です。

まず、会場となる淡路夢舞台という施設は、兵庫県淡路市に立地し、コンクリート建築で有名な建築家安藤忠雄によって設計された自然豊かなリゾート施設です（図1）。企画委員からは「スマートカジュアルまたはカジュアルな服装でお越しください」との連絡を頂き、服選びに戸惑いながら会議開始3時間前に会場に到着し、会場周辺を散策して、夢舞台の素晴らしい自然と芸術を堪能し、「リトリート」に最適な場所だと思いました。会場に到着し、配布された抄録集を開くと、口頭発表のセッションの名前がスピカ、ミルファク、ベガ、アルファラッツ、シリウス、と恒星の名前で構成

されていたので、新鮮でした。会場では、結局ほとんどの参加者がスーツ姿にマスク、おそらく知り合いが一人もいないことから、周囲に気を遣う事ありませんでした。今回生理学会からの参加者は二人でしたが、当番学会の日本解剖学会、日本癌学会、日本寄生虫学会、日本生化学会、日本免疫学会からはそれぞれもう少し多くの研究者が参加していました。

3月5日午後1:30、暖かい雰囲気の中で会が開始され、開会挨拶のスライドの一枚がとても心に残りました（図2）。この会の開催趣旨にも繋がる研究者に必要な3つの視点は、虫の目・鳥の目・魚の目だそうです。「虫の目」をもってミクロの世界を様々な角度で部分的に観察し、「鳥の目」をもって高い位置から他分野の研究を含め全体的に俯瞰的に把握し、「魚の目」をもって研究の歴史や流行を掴む。研究に限らず、この「3つの目」で物事を見極め、判断することが重要だと思いました。引き籠った3年間でしたが、このような視点を育てるためにも、時には他の学会や海外にも出掛け、交流することが必要だと強く感じました。

特別講演の宮脇敦史先生（理研）をはじめ、このリトリートには各分野の若手中堅研究者がトップジャーナルの研究成果を発表されていました。一つ一つの講演が終わらないうちに、マイクの後ろにたくさんの質問者が並んで、質疑が勢い良く飛び交っていました。新進気鋭な他分野の研究者



図1. 淡路夢舞台国際会議場入口の標識



図2. リトリート開会挨拶の一枚



図3. 第2回日本医学会連合リトリート夕食会

の皆さんの発表や討論は、専門性が高く理解できないこともありましたが、非常に参考になる研究手法やアイデアもありました。何よりも同世代の研究者による先端研究のトレンドの中における自分の研究の立ち位置を客観視することにより、危機感を感じる部分も多く、その危機感が非常に良い刺激になったと思います。宮脇敦史先生のご研究のお話の結びに、「大切なのは科学の力を総動員すること、想像力を逞しくすること、冒険的な遊び心を持つこと」と話されていました。

夕食会は、宿泊場所でもあるグランドニッコー淡路ホテルで開催されました。非常に久しぶりにマスクなしでこのような着席した懇親会に参加しました(図3)。同じテーブルの皆さんで名刺交換し、それぞれの学会の面白話やコロナ禍の間で大変だったことを共有して盛り上がりました。対面式の日常の学会が戻ってきた感覚が、今回の研究会の一番の喜びだと感じました。

夕食後に懇親会(ポスターディスカッション第一部)が開かれ、なんとその時間帯は21:00-24:00。



図4. ポスターセッション会場

皆さんドリンク片手に、リラックスした雰囲気でもポスターを見てまわり、海外で参加した学会を思い出しました。

ポスターセッションの第二部は翌日の昼でした(図4)。同じく日本生理学会による推薦で参加発表された京都府立医科大学の野村憲吾先生のポスターがとても綺麗で、発表も高評価を受け、ポスター賞を受賞されました。

今回のリトリートはコロナ禍の終焉の時期に当たり、全員がマスク着用の参加で、お知り合いになっても互いの顔を覚えられずに終わりましたが、抄録集には口頭発表演題の演者の写真や参加者全員の連絡先が載せてありましたことが非常に良かったと思います。最後に撮影して頂きました集合写真も大変良い記念になりました(図5)。日本医学会連合が発案した素晴らしいイベントだと思います。今後もし継続的に開催されるのであれば、是非日本生理学会からも積極的な参加を強く薦めたい。



図 5. 第2回日本医学会連合リトリート集合写真